



第60号 (年4回発行) 編集発行 弘前学院大学 弘前報 印刷所 (有)小野印刷所

弘前学院大学の

オーダーメイド教育

学長 吉岡 利忠



この度、文学部(第45回生)、社会福祉学部(第17回生) および看護学部(第11回生)、大学院社会福祉学研究科修士課程(第13回生)および文学研究科修士課程(第11回生)、総勢146名の皆さまを弘前学院大学にお迎えすることができました。

まず弘前学院創立130周年記念式典に参加するという貴重な機会を得ることになります。ご存じのように、学校法人弘前学院は、聖愛中学校・高等学校を擁し、中・高・大・大学院として一貫の教育を行っており、地域に根差した研究教育機関として広く知れ渡っております。

弘前学院は129年の歴史を刻み、同時に伝統を積み重ねております。入学された皆さんは、来年10月10日に開催が予定されており

大学の1号館、5号館、6号館には、弘前学院大学の建学の精神スクールモットーである「畏神愛人」の書を飾っております。旧約聖書の箴言(しんげん)第1章7〜8節が典拠であり、第14代ラッセル校長が1915(大正4)年に設定したとされております。神すなわち聖なるもの、永遠なるもの

を導び敬い、愛を持って他者に仕える人間になることを目指すという精神です。 さて、新入生の皆さんは、弘前学院大学のガイドブックを手に取ったと思います。ガイドブックの最初のページには、建学の精神、それに基づいた本学の教育の姿勢として、清新で専門性の高い教育と研究を通して幅広い文化の創造、地域や国際社会で活躍できる人材の育成さらに、学生一人ひとりに寄り添ったオーダーメイド教育と研究指導の実践を遂行していることが謳われています。出来上がったものの既製のものではなく、学生一人ひとりを対象にして丁寧にきめ細かく教育することであり、詭えたる教育を進めております。教員は担当する学生の名前はもちろんのこと、勉学のこと、日々の行動などにも注意を払い、あらゆる相談にも真摯に対応しております。

ここ数年、就職率がほぼ100%であることもこのような教育の実践の結果であろうと思えます。アクティブラーニングという教育も重要です。これは能動的(active)な学習であり、単に教師が学生を前にして講義や演習を一方的に進めるといった受動的(passive)な教育ではありません。学生と教師が同じ目線で進める講義や演習では、学生の興味を引き出し自然と討論・議論し合うことになり身に付くこととなります。そのためにはスモールグループで行う授業が必要です。スモールグループでは、個々の学生をよく観察することもできますし、同時に学生から教師への評価を受けることにもなります。それらの評価は教師にフィードバックされ、教育の質を高めることにもなります。アクティブラーニングは問題解決型教育とも言われます。すなわち、問題を抽出し、その解決策を学生自身が学習し、調査し、担当教師と討論・議論し、もつとも適切な解答を導き出す方法です。社会に出ればさまざまな問題にぶつかります。それを解決する方略を考える、その姿勢こそ重要であり、社会で求められる人材として成長して行くものであります。

もう一つ、特徴的な科目が設定されており、メディアでも注目を浴びています。これは能動的(active)な学習であり、単に教師が学生を前にして講義や演習を一方的に進めるといった受動的(passive)な教育ではありません。学生と教師が同じ目線で進める講義や演習では、学生の興味を引き出し自然と討論・議論し合うことになり身に付くこととなります。そのためにはスモールグループで行う授業が必要です。スモールグループでは、個々の学生をよく観察することもできますし、同時に学生から教師への評価を受けることにもなります。それらの評価は教師にフィードバックされ、教育の質を高めることにもなります。アクティブラーニングは問題解決型教育とも言われます。すなわち、問題を抽出し、その解決策を学生自身が学習し、調査し、担当教師と討論・議論し、もつとも適切な解答を導き出す方法です。社会に出ればさまざまな問題にぶつかります。それを解決する方略を考える、その姿勢こそ重要であり、社会で求められる人材として成長して行くものであります。

弘前学院大学は、国際交流に力を入れております。米国ウイスコンシン州にあるウイスコンシン大学、ヴァージニア州にあるシエンダア大学、イリノイ州にあるノースセントラル大学、中国の上海華東国際教育機関、韓国ソウルにある培花女子大学、釜山にある釜山科学技術大学と姉妹校提携が結ばれております。最近、ソウル神学大学とも提携が結ばれました。本年2月にはソウル神学大学の学生さんが訪問されました。6月には米国から語学研修生が予定されております。このように皆さんが国際感覚を身に付けるためのカリキュラムが設定されており、

先月、新3号館、学生ホールが竣工しました。学生も交えた建設検討委員会の話し合いの結果、皆さまにとり、機能的な3号館にできあがりしました。体育館を出て左に見える平屋の建物です。主として学生ラウンジとして使用され、プロジェクトやスクリーン、無線ランによるインターネットの利用、大きな掲示板また椅子やテーブルが配置され情報発信や交流の場として活用できます。友達同士の語り、レポート作成、毎日の勉強など大いに利用して下さい。 さて、弘前市内にある6つの高等教育機関で組織されている「学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム」があります。大学の垣根を越え学生同士でさまざまな企画を考え、「学都ひろさき」の活性化に結び付けようという取り組みであり、弘前市からも支援を得て、各大学との学術的交流、学生が主体となってセミナーの開催、先日本学で開催されましたが市

長との懇談会、合同文化祭、弘前中心街でのイベント、若い世代が街を盛り上げようと熱くなっています。その甲斐あって、土手町や駅前などに若者が集うようになりました。どうぞ、新入生の皆さんも積極的に参加して頂きたいと思っております。

本多の明治四十一年四月から翌年三月頃までの東奔西走ぶりは超人的なものであった。文字通り北海道から九州、さらに韓国にも及ぶ執念にも似た伝道旅行の連続であった。当時は東海道の幹線でも



学校法人弘前学院 理事長 阿保 邦弘 岩木山嶽温泉の静養

本多庸一とキリスト教

(32)

新橋―京都市間は急行で十一時間を要したのである。他の地方の交通事情に至っては推して知るべきもなかったであろう。教会での説教、学校での講演、公会堂、劇場等での演説は、一日数回に及ぶときもあり、その間に各種の会合に出席し、座談、面会の応接にいとまなく、揮毫の求めに応じ、読みかつ書き、監督事務に精励していたのであった。

明治四十一年十二月、本多満六十才。関西伝道の際に還暦の誕生日を迎えていた。この冬、彼はし

ばしばしば激しい腰痛に苦しみ、注射を続けながら激務に従っていたという。元来彼は健康であった。よく食べよく眠った。精力絶倫、神経も太かった。しかし、もはや彼も老人であった。ことに監督となつてから二年の間になした超人的スケジュールの強行は、ようやく彼に疲労が色濃く陰を落とし始めていた。明治四十二年初夏、過労から健康を害し、軽微な腹膜炎と診断され静養を勧められた。故郷にその身を休めるため、七月十七日に東京を発つた彼は、途中平野で下車して休息しなければならぬほど疲れていたと云う。

九月月上旬まで、弘前西方十八キロ岩木山麓常盤野の嶽温泉で静養の日々を過ごした。それは長い激務の、しばしの憩いの時であった。彼はここで心静かに読書をし、手紙を書き、ことに紙を延べ揮毫を試みるの日課としたという。

常盤野に約一ヶ月を過ごした彼は「護教」に通信を載せた。これによれば海拔約五百メートルのこの野は牧場を持ち牛馬が七、八十頭おり、住宅が六戸人口二十五人できわめて素朴である。ヨルダンの荒地を想像できるといっている。岩木山のここからさらに千五百メートル高く部落の後ろの森を抜けると、西北の方向に日本海を見

ることが出来る。このような状況であるから羽が生えて仙人になつたような思いであるが、唯一毎日配達される郵便がこれを妨げるのである。また、本多は「国勢一覽」などを見て日本の宗教勢力の比較をし、全国の神社十万余、神官神職一万余、仏寺十万余、住職五万余一人に対しキリスト教会と講義所千六百七十五、男女宣教

新3号館完成 弘学時報58号で建設の経緯や工事の進捗状況を報告した新3号館が、耐久性に優れた鉄骨構造の近代的な建物に生まれ変わりました。3月25日に予定どおり工事が完了し、翌日から机や椅子の搬入、生協の引越し作業などが行われ、4月1日から学生ラウンジとして使用しております。4月27日には、理事長、学長、後援会長、校友会長、工事関係者等の臨席を賜って、献堂式が厳かに執り行われ、新3号館を神に奉献しお祈りを捧げました。

新3号館には、プロジェクトやスクリーン、アクセスポイントなどが設置されており、コードレスで動画を投影したり、インターネットを利用したりすることが可能であり、ミニホールとしての機能も備えております。また、車椅子の使用を考慮して、椅子・テー



(以下次号)



(文責：對馬)

佐藤幸正教授の最終講義

英語・英米文学科長 佐藤 和博

本学文学部英語・英米文学科において、長年にわたり教授として研究と教育の両面で多大な貢献をしてこられた、佐藤幸正先生の最終講義が5月19日午後2時30分より礼拝堂にて開催され多くの参加者がありました。

当日の演題は「W. H. Hudsonと野鳥」であり、先生が長らく研究テーマとし



原の動植物に関心を示し、細かく観察して、メモを取っており、その後、独学で博物学を学びました。20代後半にブエノスアイレスに出て、アメリカのスミソニアン協会及びロンドン動物学会へ珍しい南米の野鳥の標本を送ったりするようにしました。この時代のHudsonの書く野鳥に関する文章の特徴としては、科学的、客観的な

記述といえることができる。後にHudsonが出版したGreen Mansions(1904)等のような小説における鳥の描写においては、科学的、客観的な記述からは一転して象徴的な記述も見られ、時には鳥の鳴き声が「死んだ友人」を連想させる、等の例が作品のなかに指摘できる。

また、Hudsonの自然観を表す例として、自然の事物が作者と一体化する姿が作品の中に具体的に示される。

最後に、Hudsonがイギリスの子ども達に野鳥を保護すること、また環境を保護することの重要性を説き、保護活動にも関わっていたこと、等が紹介されました。

講演の後、質疑応答の時間があり、出席者から、いくつか質問がありました。最後に、佐藤幸正先生に花束が送られ、大きな拍手に包まれました。

著書紹介

畠山篤編著『能舞(鐘巻)の復原』

大学院文学研究科 准教授 入江 英弥

『能舞(鐘巻)の復原』が弘前学院出版会より二〇一五年三月に刊行された。編著者は大学院文学研究科教授、畠山篤氏。定価は一八〇〇円十税。販売は北方新社が担い、弘前市の書店の郷土コーナーにも並べられていて、すでに手に取られた方も多いかと思う。

内容は次の通りである。
第一章 能舞への誘い
第二章 能舞(鐘巻)の復原
第三章 能舞(鐘巻)の鑑賞
第四章 能舞(鐘巻)に見ら

れる女性観―黒川能(鐘巻)との比較から―
第一章より第三章までは畠山氏、第四章は本学大学院文学研究科を修了した吉岡倫子氏の執筆による。

本書は、『能舞』の研究書である。能舞とは下北地方各地に伝承されている山伏神楽をさす。山伏が当地域にもたらしたと考えられ、現在は地元青年組織などにより演じられている。中世芸能の面影を残し、典型的な「修験能」であることか

ら高く評価され、国の重要無形民俗文化財の指定を受けている。なかでも、鐘巻寺の参詣に執着した結果、仏罰により鬼神と化した女性を客僧が調伏し、救済するといった筋の大曲「鐘巻」はよく知られている。

本書の最大の特徴は、伝本以前の段階の「鐘巻」の台本がいかなるものかを定めようとしたことにある。すなわち、もとの本文を復原しようという試みである。現在、残された台本は地元の人たちが記したものがほとんどである。だが、書承や口承の段階において変化したためか、詞章が判然としない点が多々

父母と教職員の会

総会・懇談会報告

五月三十日(土)、本学にて二〇一五年度父母と教職員の会総会・懇談会が催されました。

総会では、佐藤和博会長が議長となり、以下の議案について話し合われ、承認されました。

○第一号議案

二〇一四(平成二六)年度活動報告及び収支決算報告について

○第二号議案

二〇一五(平成二七)年度活動計画(案)及び収支予算



2015(平成27)年度弘前学院大学 父母と教職員の会収支予算書

[期間:平成27年4月1日から平成28年3月31日] (単位:円)

収入の部		前年度予算額	前年度決算額	今年度予算額	差額(△減)	備考
前年度繰越金		1,413,203	1,413,203	1,298,322	△ 114,881	
入会金		567,000	564,000	441,000	△ 126,000	3,000×147名[学生]
会費		5,407,200	5,472,600	5,205,600	△ 201,600	7,200×650名[学生] 7,200×73名[教職員]
雑収入		100	441	100	0	預金利息
合計		7,387,503	7,450,244	6,945,022	△ 442,481	

支出の部		前年度予算額	前年度決算額	今年度予算額	差額(△増)	備考
運営費		325,000	237,649	280,000	45,000	
1 事務費		100,000	61,356	80,000	20,000	事務用品等購入
2 通信費		100,000	56,577	80,000	20,000	役員会・総会案内送料
3 旅費交通費		15,000	0	15,000	0	交通費等
4 会議費		20,000	6,716	15,000	5,000	総会飲物代等
5 慶弔費		90,000	113,000	90,000	0	
活動費		700,000	566,480	700,000	0	
1 広報費		300,000	300,000	300,000	0	弘学時報印刷代他(4回)
2 父母懇談会費		400,000	266,480	400,000	0	地区別懇談会(弘前・青森・盛岡)
活動協力費		4,500,000	4,002,079	4,250,000	250,000	
1 父母・教職員研修会費		200,000	96,024	150,000	50,000	講師謝礼・研修会案内送料等
2 教職員研修補助費		300,000	265,740	300,000	0	東北私立大学協会研修会旅費補助等
3 育英費補助費		200,000	200,000	200,000	0	弘前学院奨学金
4 宗教部補助費		550,000	549,927	550,000	0	宗教部活動補助
5 学生課補助費		200,000	186,130	200,000	0	学生課補助
6 学友会補助費		300,000	300,000	300,000	0	学友会補助
7 就職開拓補助費		600,000	271,822	500,000	100,000	企業・福祉施設訪問旅費等
8 図書補助費		750,000	750,000	750,000	0	図書館図書購入費補助
9 学生募集活動補助費		700,000	700,000	700,000	0	学生募集に係る広告掲載等補助
10 研究所補助費		450,000	432,436	350,000	100,000	地域総合文化研究所、福祉創造フォーラム補助
11 国際交流活動補助費		250,000	250,000	250,000	0	国際交流委員会補助
特別補助費		1,862,503	1,345,714	1,715,022	147,481	
1 特別スポーツ補助費		100,000	0	100,000	0	全国大会・東北大会等の上部大会出場補助
2 学会・大会等補助費		100,000	100,000	130,000	△30,000	学会・大会活動補助費
3 設備補助費		964,000	939,944	964,000	0	
4 予備費		698,503	305,770	521,022	117,481	
合計		7,387,503	6,151,922	6,945,022	442,481	

役員改選について
なお、役員については次のとおり決定されており、おめでとうございます。
会長 佐藤 和博(本学教授)
副会長 鳴海 一成
監事 中澤 祐政

監事 佐々木正晴(本学教授)
顧問 吉岡 利忠(学長)
総会後行われた懇談会では、学生生活や履修及び単位修得、就職状況等の説明の後、出席された会員の皆様より保護者への

成績開示についてご質問や意見が寄せられました。懇談会終了後の個別相談では、会員同士親しく懇談する姿もみられ、学費サポートや就職支援への関心の高さがうかがえました。

人事異動

◆新任

文学部兼文学研究科 教授 藁科 勝之
准教授 葛西智賀子
助手 長内 千穂
助手 金子 夏弥
助手 後藤美優子
事務職員 総務課 成田 悠人
学務課 菱谷 凌
学務課 鳴海 誉

◆異動

高校事務長補佐(総務課より) 坂本 光子
看護学部事務室主任・学務課(法人本部より) 三上ノリ子
社会福祉学部事務(看護学部学務課より) 木村 督彦
入試広報センター(総務課より) 佐々木実香
法人本部(学務課より) 秋田 苑実

◆大学院 学部長及び主任

文学研究科長 教授 畠山 篤
社会福祉学部長 教授 吉岡 利忠
社会福祉学部長 教授 石田 和男
学務主任 准教授 高橋 和幸
学生主任 准教授 藤岡 真之

◆看護学部

看護学部長 教授 榎引美代子
看護学部長 教授 千葉 正司
学務主任 准教授 工藤 優子
学生主任 教授 畠山なを子



能舞(鐘巻)の復原

畠山 篤 編著

◆退職
文学部 教授 佐藤 幸正
准教授 三浦 一朗
教授 木村 紀美

文学部 教授 佐藤 幸正
准教授 三浦 一朗
教授 木村 紀美

文学部 教授 佐藤 幸正
准教授 三浦 一朗
教授 木村 紀美

文学部 教授 佐藤 幸正
准教授 三浦 一朗
教授 木村 紀美

文学部・社会福祉学部合同

就職セミナー報告

五月九日(土)に文学部・社会福祉学部四年・三年生対象の学内就職セミナーを本学体育館にて実施した。

現四年生から、就職解禁が三年生の十二月から三月に移行したため、従来実施していた一月から五月へと日程を変更して実施した。なお、就職解禁からセミナー実施日までの二ヶ月間は、学生に対して就職支援業者等が行う合同就職説明会や企

業・福祉施設単独の説明会に積極的に参加することを指導し、最終的には、今回のセミナーをとおして企業・福祉施設が求める人物像をしっかりと把握し、就職への意欲をさらに高め、これから本格化する就職戦線に備えると共に、就職内定へ結びつけることを目的に行われた。

今回参加した企業・福祉施設等は四十二事業所であり、各ブースにての説明は、オーバードット気味に展開し、それ以上に参加した学生は話に聞き入り、事業内容等を確認していた。

なお、実施後のアンケート結果からは、約七割の学生が目指す企業・福祉施設の求める人材や事業内容を含む各情報を得られ就職意欲が向上したと回答をしている。



二〇一五年度

二〇一五(平成二七)年度の弘前学院大学特待生に、五月二十七日(水)十二時より賞状の授与が行われた。今年度の授与者は次の方々です。

文学部

- 二年 笹花 哲平 (盛岡第四高校)
- 三年 松山 菜月(板柳高校)
- 四年 菅野 亘 (東奥義塾高校)

社会福祉学部

- 二年 三上 晴佳(弘前高校)
- 三年 丹藤 雅代 (弘前中央高校)
- 四年 三上佑佳子 (弘前中央高校)

看護学科

特待生授与者

- 二年 藤田 隼輔(三沢高校)
- 三年 池内 美季 (札幌日本大学高校)
- 四年 古川 有里(弘前高校)

*一年生については、前期成績発表後の十月に授与予定です。



一方企業側からは、礼儀正しく、しっかりと挨拶ができ、真面目で元気でやる気があると学生を好評価していただいた。この結果を就職に結びつけ是非良い結果をもたらしていただきたいものである。

以上であるが、今回のセミナーを境に学生が企業・福祉施設に果敢にアタックして、自分の望む就職先を決定することを願う報告とする。(就職課)



韓国研修旅行

看護学科 三年 斎藤 舞葉

2015年3月22日〜27日の5泊6日で、韓国への研修旅行に、看護学部から私を含めて3名が参加しました。私がこの

研修旅行へ参加した理由は、何年か前から韓国の音楽が好きで、そこから韓国の文化を知りたいと思ったこと、病院や通

第6回全国看護学生作文コンクール優秀賞受賞

看護学科 三年 船水 優香

2年次の秋頃、大学の掲示板に貼られている全国看護学生作文コンクールのポスターを目にしました。「大学生なのに論文とかじゃなくて、作文？」そんな面白さに惹かれ詳しく見てみると、何と大賞10万円の文字が

し、何だか楽しい時間でした。私が看護と深くかかわるようになってから目指すまで、そして現在。大学入試の面接以外では語ったことのない内容に、「こんなこと書くのやめようかな」とも思いました。そんな時、頭に浮かぶのは「10」という数字。ただの数字に、これ程まで心が揺さぶられるのは人生で初めてで、「お金つて怖いな」。そんな事も、このコンクールを通して学んだように思います。

テーマは「私と看護」。テーマに関連していればどんなこと書いてもいいということだったので、私が看護師を目指すに至ったきっかけを書きました。規定の1200字に思いを詰め込むのは思いの外難しく、しか

も事実です。不純な応募動機への不安はどこへやら。気づけば、埼玉で行われた表彰式に参加していました。式には、最優秀賞・優秀賞の学生が全国から参加していました。山梨・大阪・長野・香川・佐賀、そして青森このコンクールに応募しなければ出会うことのできなかった仲間たちとは、お互いの学校の事や夢の事、津軽弁の訛り具合…。短い時間の中で、本当に多くの事を語り過ぎることができました。「また看護師として会おう」「お互い恥ずかしくないように、頑張らなきゃね」こんな約束をした仲間たちが全国にいるのですから、怠けてなんていられません。時には学外に飛び出して、小さい事であっても



は緊張感や恐怖心などが少なくなるだろうと感じました。大学訪問では、ソウル神学大学や培花女子大学の日本語を勉強している学生の皆さんと交流させて頂きました。培花女子大学では、日本語クラスの人達が緊張している私達に明るく上手な日本語で色々話しかけてくださって、とても楽しく有意義な交流ができました。またソウル神学大学では一緒に食堂で食事をしたのち、学内を案内してくださりました。その中の何人かの方達は、私たちが行きたい場所に大学訪問の日とは違う日であるにもかかわらず、「案内してあげる」と言ってくくださり、韓国の街を案内してくださりました。韓国での食事は、街を歩い

ていて何気なく入ったお店で食べました。料理は辛かったですが、とても美味しかったです。食事に際しては、日本では食器を手に持って食べるのが食器の作法ですが、韓国では食器を置いて食べることがわかりました。いつもの癖で何回も食器を持って食べてしまいましたが、韓国の文化に合わせて食事したことも良い思い出になりました。

今回の韓国への研修旅行では、韓国と日本の患者さんに対するサービスの違いについて勉強になりました。将来、看護師になった時に今回の研修旅行の経験を活用できるように、これからも勉強に励みます。また、



培花女子大学の日本語クラスの皆さんと一緒に

2015(平成27)年度一年生(新入生)のための『ヒロガク教養講話』

(木曜日11時15分〜12時) (414号 大講義室)

NO	開講日	担当者	タイトル
1	4月 16	学長・社会福祉学部長 吉岡 利忠	心のゆとりを調べてみよう
2	23	弘果 弘前中央青果株式会社 専務取締役 葛西 静男	卸売市場から見たりんご品種の移り変わり
3	7	国際ソロプチミスト弘前 会長 工藤 孝子	コミュニケーションとトリプルP
4	14	東北化学薬品株式会社 監査役 永富 明郎	幕末の教育者・吉田松陰について
5	21	株式会社堀江組 代表取締役 堀江 敏志	昔の建物
6	28	株式会社南建設 代表取締役社長 南 直之進	社会貢献活動への関わり方
7	4	元ソフトボール日本代表監督 弘前市市民文化スポーツ部 文化スポーツ振興課 主幹 齋藤 春香	「世界への挑戦」〜弘前から世界へ〜
8	11	株式会社アルク 代表取締役 小山内和寿	地方創生と弘前〜地域企業だからおもしろい〜
9	2	看護学部長 榎引美代子	養生訓に学ぶ東洋医学
10	9	青森スポーツクリエイション株式会社 青森ワッツ 事業部ディレクター 長谷川万利子	スポーツエンターテインメントの役割〜青森ワッツの立ち上げ〜
11	16	東京工芸大学工学部 基礎教育研究センター 教授 木村 瑞生	ノルディックウォーキングで体も頭もスッキリ
12	23	英語・英米文学会	学生英語弁論大会

2015(平成27)年度『特別講話』

(10時20分〜11時50分) (414号 大講義室)

NO	開講日	担当者	タイトル
1	7月 30	国際セラピードッグ協会 代表 大木トオル	社会福祉とセラピードッグ〜人と犬の命の絆〜

※一年生以外の学生も参加可能

目標は英語力アップ

英語・英米文学科 一年 葛西 俊介



大学生になって一番思うこと、それは、大学という所はとて自由であるということだ。こんな自由な時間、長い長い人生の中でも大学生である今とその後くらいにはないのではないかと

四年間何もせずダラダラと過ごしていれば、その四年間は無駄なものになるし、自分の目標に向かって一生懸命頑張ればその四年間はとて有意義なものになる。同じ四年間でも過ごし方によって自分の将来が大きく変わって行くと思う。そんな毎日でも価値のあるものに思えてくる。私は将来の目標などは、まだはっきりとは決まっていない。しかし、それですと悩んでいても時間の無駄なので今は自分の英語力アップのための資格などに挑戦する

人生の糧に

日本語・日本文学科 一年 對馬 友瞳



活動では吹奏楽部と文芸部に所属したことで新たに友人が増え先輩方とも関わりを持ち毎日楽しく活動しています。

また、ヒロガク教養講話では学内だけでなく学外からも講師の方がきてくださいます。先日は、吉田松陰の言葉や生き様を追う話や県内の株式会社でリフォーム事業を行っているアルクさんから、なぜ県内での会社なのか、お客さんとやりとり

「夢」実現のために

社会福祉学部社会福祉学科 一年 佐藤 智大



入学から約三か月が経ち、ようやく大学や一人暮らしの生活にも慣れ、心に余裕が持てるよ

大学の授業は、一コマの時間が長かったり、ノートのまとめ方が難しかったりと、苦労することも多い。しかし、授業の始めに歌を歌う先生や、お茶を飲み、菓子を食べながら談笑し、リラックスしたところで授業を

始めてくださる先生がおられるなど、とても楽しく、興味を持って受講したいという気持ちにしてくる授業がたくさんあった。そこが高校までの授業との違いであり、大学ならではの授業なのかなと感じている。楽しく過ごしながらも、夢を実現させられるようしっかりと勉強し、有意義な大学生活となるようにしたいと思う。

夢に向けての覚悟

看護学科 一年 堀川 優輝



桜の舞う四月に入学して早くも二ヶ月が過ぎました。自分も望んだ大学ではなかったこともあり、始めは続けられるのか、新たな環境で新しい友人ができてくるのか、看護の勉強についていけるのか、たくさん不安の中

記で述べたことを精進していきます。実した四年間を過ごすために上

新入生の夢と希望

一人でも多くの苦しんでいる子供を救うことである。母が福祉系の仕事に就いてきたこともあり、漠然と母と同じ道に進みたいと頭の片隅で考えていた。そんな私の目に、ある日、児童虐待に苦しむ子供を救う児童福祉司の活躍を描いたテレビドラマが飛び込んできた。ドラマ等に影響されやすい私は、それを見た瞬間に、「児童福祉司になる」と決めたのである。

語学研修生から学んだ大切な事

英語・英米文学科 三年 成田世莉花

私たちは、5月25日から6月19日の約1カ月間、アメリカのウィスコンシン大学から男子2名、シエナンドア大学から女子1名の計3名を語学研修生として迎えた。ウィスコンシン大学には日本語教育があるため、彼らは日本語がとて上手であった。しかし国を越え学ぶということとはとて心細く、不安であるだろう。その不安を少しでも軽くし、弘学に馴染んでもらうため様々なプログラムが行われた。

次に、研修生の日本語の授業を学生が支援する学生ボランティアという制度である。授業は日本語を書くだけでなく、日本語での質問に対して答えるリスニングや漢字の習得もあつた。正しい日本語を教えることができるかとも不安だった。しかし研修生が自己紹介の時に日本語で冗談を言って笑わせて

